

「トイレに流せる製品」の国際規格化に関する動きについて（情報提供）

1. 直近の経緯

2/4 DIS（国際規格案）の国際投票

(DIS の主な内容)

- 「トイレに流せる製品」の適合性を評価する試験方法

排水設備・下水道管路・ポンプ場・処理場への適合性を評価するそれぞれの試験方法につき、試験方法を一つに限定せず、IWSFG PAS3 2020 や EDANA/INDA（欧州不織布協会／米国不織布協会）の作成した製造者規格など、各国で規格化された、又はそれに準じた試験方法を複数提示しており、各国が試験方法を選択可能。

- 「トイレに流せる製品」の統一ラベル表示

トイレットペーパーを除く製品のうち、プラスチックを含まず、排水設備や下水道施設への適合性を評価する各試験に合格した製品のみ、「トイレに流せる製品」の統一されたラベルの表示が可能。

(結果)

日本は条件付き賛成（TR（技術報告書）であれば賛成として修正意見を提出）

開票結果： 否決（TC224 メンバー全体 23 反対 7 > 1/4）

3/25,27 WG10web 会議 IS（国際規格（世界的な統一規格））としては否決、との投票結果を受けて
対応協議

(主な内容)

日本は「各国の法令・基準に準拠する」ことを強く主張。→「はじめに」に記載。

各国から、ラベルに「流せる」と書くこと自体への反対、ほか意見多数。各対応を協議。

座長が、IS ではなく、TS（技術仕様書（各国で使用可能な規格））として投票にかけること、とされた。

4/21 DTS（技術仕様書原案）配布（意見締切～5/21）

(DTS の主な内容（前回の DIS からの変更点）)

- 1) IS から TS へ変更
- 2) 対象製品は、ウェットティッシュ類のみに縮小
- 3) ラベルは「流せない製品」のみに変更

ただし、web 会議での混乱もあり内容は一部矛盾記載もあり

2. 今後の見通し

- ・ TC224WG10 国内対策 WG において DTS に対する日本の意見（修正案）を作成し、関係業界や国内対策委員会に確認の上、5/21 までに投票。
- ・ WG10 事務局が各国意見への対応案を作成。6/25 カナダで開催される WG10 会議・TC224 総会において対応案を議論。その結果を最終 TS 案としてとりまとめた後、国際投票。
- ・ トイレに流せる製品の国際規格化については、各国の反対もあり当面避けられる見通しとなったが、TS となった場合でも、3 年後に見直しにより国際規格とするかどうかの投票が行われる。このため、国内下水道での「トイレに流せる製品」対応のあり方について検討すべく準備を開始。